

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念とともに、当グループホーム独自の理念をホーム内に掲示し、運営している。	事業所の理念・基本方針については事務所とリビング内に掲示し、仕事に入る前に確認し共有に努めている。法人の社是、経営理念についてはミーティング時に唱和し共有と実践に繋げている。職員の中に理念にそぐわない言動等があった場合は管理者とリーダーより個別に指導を行い、理念に沿った支援に取り組むようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できる限り、地域の行事への参加をするよう努めている。近隣の保育園との交流も定期的に行なっている。	自治会費を納め区の一員として活動している。回覧板、市の広報誌、区長、民生委員より情報を頂き、区の防災訓練、文化祭等に参加し地区のお祭りにも見学に出掛けている。近隣の保育園児が保育園新聞持参で定期的に来訪し歌とお話して利用者とふれあい、小さな子供の来訪に利用者の目も輝いているという。また、中学生、高校生の職場体験の受け入れも引き続き行われ「傾聴」や「おやつ作り」等で交流の時間を持っている。更に「傾聴」、「踊り」、「体操」等の各ボランティアの来訪も月2回あり利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生や高校生の社会福祉体験学習の受け入れを行っており、認知症についての理解を深められるよう取り組んでいる。また、ご家族等より介護についての相談など受けた時には個別に相談を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でいただいたご意見は、ミーティング等を通じてスタッフに伝えている。改善が必要なものについては適宜話し合い、サービスの質の向上につなげるようにしている。	家族代表、区長、民生委員、諏訪広域連合職員、市介護相談員2名、ホーム関係者の出席で定期的開催している。ホームの概況報告、利用者状況報告、防災訓練について、地域との連携交流について、日常状況の報告、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。家族から頂いた意見や改善要望については全職員に連絡し、改善出来る事柄については支援の中に取り入れるようにしている。。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議を通して、事業所の取り組みなど伝えている。また、定期的に介護相談員の方の来訪があり、情報共有を行なうようにしている。	市介護保険課を定期的に訪問し連携を取り状況をお話したり助言も頂いている。市介護相談員2名が月2回来訪しており、利用者も打ち解け交流の時を過ごしている。特記事項については報告があり、内容を職員にフィードバックし支援に役立てている。介護認定更新調査はホームにて行い、立ち会われる家族もいる。岡谷市のグループホーム連絡協議会にも参加し、他事業所との情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内や社内研修を通して、全スタッフが正しい知識を持てるようにしている。普段のケアの中で、身体拘束を行なわないよう努めている。	法人の方針として拘束のないケアに取り組み、玄関も開錠されている。スピーチロック等、言葉遣いにも気を配り、きめ細かく所在確認を行うことで事故の無い安全な施設を目指し取り組んでいる。転倒の危険を避けるため家族の希望でセンサーマット使用の利用者がいる。月1回、拘束について正しい知識の習得を持てるよう研修会を行い、拘束ゼロに向けて意識を高め実践している。	

ニチイケアセンター川岸夏明・いちいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、事業所内の研修において虐待防止の研修を実施している。利用者の状態観察に努め、心身等に異常がないかどうか見過ごさないよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人で学んでいるスタッフもいるが、今後事業所内の研修に取り入れ学ぶ機会を持つようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、法改正等の際には、丁寧に分かりやすく説明を行なうよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート方式の顧客満足度調査を毎年実施し、ご意見を頂くようにしている。頂いたご意見の中で、改善が必要なものについてはスタッフ間で話し合いを持つようにしている。	意思疎通の難しい利用者が半数位いるが、家族からお聞きした生活歴も参考にしながらセンター方式のシートを活用し視点を変え思いを受け止めるようにしている。家族の来訪は週1回から月1回位で、居室にて寛がれている。来訪の際には日頃の様子を細かくお伝えしている。家族会は不定期であるが開催し、意見を頂き支援の中に活かしている。誕生日会は職員より色紙を送りケーキを食べレクリエーションを行い全利用者でお祝いをしている。また、誕生日、母の日、父の日にプレゼントや花を贈られる家族もいる。更に、3ヶ月に1回、お便り「なつあけライフ」を発行し行事の様子などをお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別面談等で、スタッフの意見を聞く機会を設けている。スタッフからの提案の内容により、施設の運営や業務改善に活かすようにしている。	月1回行われる会議は全員参加を目標に何回かに分けて実施している。全体会議では会社からの連絡事項、管理者会議の報告等を行い、ユニット会議は利用者のカンファレンス中心に行っている。人事考課制度と、キャリアアップ制度があり管理者による個人面談、また、資格取得によりスキルアップに繋げている。管理者は職員と気軽に話しの出来る環境作りに心掛け、職員の意見を汲み上げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、スタッフの意欲向上につながっている。各種手当等も改善されてきており、労働環境の改善につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の研修や、社内の研修等への参加により、育成に努めている。また、社外への研修への参加をも勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会にて定期的に会議が行なわれており、参加している。他事業所との情報共有に努めるとともに、ネットワークづくりを行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に面談を行ない、その方の思いを理解できるように努めている。得た情報は、職員間で情報共有を図るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前にご家族とのコミュニケーションを密に図るようにし、要望や思いをお聴きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時や見学の際、グループホーム以外のサービスも利用可能と思われる場合は、他サービスについてもこちらから提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など、できる方は職員と一緒に行動していただくようにしている。また、本人と職員とがコミュニケーションを密に図ることで、信頼関係を築いていけるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を、ご家族が来訪されたときに職員からお伝えするなどしている。面会の際に一緒に過ごしていただいたり、ご家族のご協力をいただき、外出の機会を持てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の方などの来訪時には、一緒に過ごしていただくとともに、定期的に足を運んでいただけるよう、願っている。	友人、親戚の来訪があり居室にて寛がれたり、一緒に外出される方もいる。独居より入居された方が半数ほどおり、家族と自宅の様子を見に出掛ける方が数名おられる。合わせてホームの電話で家族に連絡される方が数名おられ、また、家族と馴染みの美容院や買い物に出掛ける方も数名いる。男性利用者も三分の一弱おられ、利用者同士、良好な関係が継続されるよう職員が中に入り話題を提供したりして良好な関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が円滑に行なえるよう、必要に応じて職員が間に入り、より交流を深めていただくようにしている。家事などお互い協力しながら行なっていただけるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方であっても、必要に応じてご家族の相談に乗るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を普段よりお聴きし、職員間で情報共有を行なっている。困難な方についてはセンター方式シートを活用、作成し、できる限り意向を把握できるように努めている。	利用者が決められるような提案を二者択一も含めて行い、意思疎通の難しい利用者については表情や行動から判断し意向に沿った支援に繋げるよう取り組んでいる。遠慮がちな利用者については基本的に職員がきめ細かく声掛けを行ったり、夜間、居室にて1対1で話をする時間を設けたりして取り組んでいる。日々の気になる言動等は介護記録に残し、情報を共有してユニット毎の申し送り確認を行い意向にそった支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、担当ケアマネジャー、関係者の方から必要な情報をいただき、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子をよく観察するとともに、職員より情報収集をしセンター方式シートを作成、現状の把握ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、センター方式シートにてアセスメントを行なっている。カンファレンスでの意見を元に、計画書を作成している。	職員は2名の利用者を担当し、整理整頓、衣替え等を担当し、誰よりも担当利用者のことを理解するよう努めている。計画作成担当者中心にモニタリングシートによりアセスメントを行い、ご家族の希望は来訪時及び電話にてお聞きし、カンファレンスで担当職員中心に話し合いを行いプランを作成し、半年に1回の見直しを行っている。また、入居時には3ヶ月での見直しとなり、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入により、職員間での情報共有を行なっている。モニタリングの際には記録も活用し、介護計画書の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲で本人やご家族の希望に添えるようにしている。対応が困難な場合には、代替案の提案、他サービスの紹介など行なっている。		

ニチイケアセンター川岸夏明・いちいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に傾聴ボランティアや、近隣住民のグループによる余興ボランティアの受け入れを行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回または必要時に、提携医による訪問診療を受けられるようにしている。本人や、ご家族が希望する医療機関への受診は、ご家族に受診対応をお願いしている。	ほとんどの利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。24時間対応の訪問看護ステーションの看護師が週1回水曜日に来訪し、利用者の健康管理に合わせ医師との連携を図り、万全な医療体制が整えられている。歯科は必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問以外にも、利用者の状態等に変化があれば、随時報告、相談をするようにしている。24時間いつでも連絡がとられ、必要時には緊急訪問を受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、利用者の状態などを病院関係者へ情報提供している。入院先にも伺い、利用者の病状や、治療の経過をお聴きするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について何うようにするとともに、看取りの指針についてご家族に説明をしている。終末期の方については、医師や看護師、ご家族と話し合いの場を設け、今後の方針について決定するようにしている。	重度化した際の法人の指針があり利用契約時に説明し同意を頂いている。終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホームで話し合い、医療行為が発生しないぎりぎりまでホームとして出来る支援に取り組み、家族の希望を確認しながら、医療機関、他施設への住み替えも含めた支援に取り組んでいる。職員に対しては訪問看護師が講師となり終末期の支援についての話しをしていただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	容態急変時や事故発生時に備え、研修等を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いにて避難訓練を行ない、緊急時に対応できるようにしている。また、運営推進会議の中でも災害時の協力体制を得られるよう話し合いを行なっている。	年2回、3月と9月に防災訓練を行っている。うち1回は消防署員の参加の下、指導を頂き実施している。火災想定訓練では水消火器を使つての消火訓練、通報訓練を行い、避難訓練は利用者全員外へ移動しての訓練を行っている。近くに天竜川が流れており「水害想定」の避難訓練も行い、1階の利用者を2階へ移動しての訓練を実施し、緊急時への意識を高めている。備蓄は「おかゆ」、「缶詰」、「水」などが利用者・職員分として3日分準備されている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話の際には、本人を否定しないような言葉を使用するよう心がけている。	声掛けや言葉遣いには特に気を付け、互いに注意し合い気持ち良く過ごして頂けるよう心掛けています。また、トイレ介助の際には周りに解らないように、合わせて、入浴介助の誘い方等にも気配りするよう徹底しています。入室の際にはノックと「失礼します」の声掛けを忘れないようにし、また、呼び方は苗字を「さん」付けでお呼びしている。年1回プライバシー保護の研修会を行い意識を高め取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフより希望をお聴きしたり、本人に決めていただく場面をつくるなどの働きかけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気分などを把握しながら、ご自分のペースを優先し、対応するよう心がけている。お一人でゆっくりしたい時には居室で過ごしていただいたり、本人の希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方には、好きな洋服を選んでいただくようにしている。散髪は、近所の美容室より来ていただき、本人のお好きな髪形にカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きなものをメニューに取り入れたり、本人の要望に応じた盛り付けにするなど工夫している。できる方には、食事の後片付けを一緒に行なっていただいている。	自力で摂取できる方が半数、全介助の方が三分の一、一部介助の方が若干名という状況である。献立は利用者の希望も取り入れながら職員が考え提供している。朝食は利用者一人ひとりの起床時間に合わせお出ししている。利用者のお手伝いについては力量に合わせ食器拭き等の後片付中心に参加していただいている。正月、ひな祭り、お彼岸、お盆、敬老会、クリスマス会等には季節の料理をお出し、夏場にはソーメン流し等も楽しんでいる。また、家族と外食に出掛ける利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の気分や、個人のペースに合わせ食事を食べていただくようにしている。摂取量の少ない方には、特に時間を決めず食べたい時に食べられそうなものをお出しし、促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけをするとともに、介助に必要な方は職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表への記録、活用し、定期にトイレの声かけ、誘導、介助を行なっている。	自力されている方は数名で布パンツを使用しており、一部介助でリハビリパンツとパット使用の方が三分の一、全介助の方が半数弱でリハビリパンツまたはオムツとパット併用という状況である。排泄チェック表により職員は個々のパターンを把握しており利用者のパターンに合わせ誘導と介助を行っている。また、食事前と就寝前に声掛けを行っている。更に、排便促進を図るため牛乳、乳酸菌飲料、ヨーグルトなどの摂取を進め、1日の水分摂取量を個々にチェック表に残し、少ない場合にはお好きな飲物を摂取するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中に、乳製品等取り入れ便秘を予防できるようにしている。また、水分チェック表を確認し、個人の水分摂取量を把握するよう努めている。少ない方には職員から飲み物を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の希望に添えるよう対応している。気分の乗らない方には手浴、足浴等で対応している。	一部介助の方が半数強、全介助(一部2人介助含み)の方が半数弱という状況である。基本的には週2回の入浴を行っている。入浴拒否が強い利用者があるが誘い方に工夫をしたり時には足浴等で対応している。季節に応じ、温泉の素の入浴剤や香りを変えた入浴剤を用い、楽しい入浴を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせ休んでいただいている。寝付けぬ時にはマンツーマンでお話をお聴きする等、安眠につながるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方箋ファイルを作成し、薬の種類や効能、副作用を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には家事を職員と一緒にこなしていたり、本人の張り合いとなるよう対応している。また、季節の行事や、楽しんでいただけるレクリエーションを企画し、参加できるようお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や体調を見ながら、散歩の機会を設けている。ご家族にもご協力をいただきながら、外出の機会を持てるようにしている。	外出時、自力歩行の方は若干名で、杖・歩行器使用の方が三分の一、車イス使用の方が半数強となっている。天気の良い日にはベランダに出てお茶を飲んだり、ホームの周りや天竜川まで散歩に出掛けている。また、春には近くの神社までお花見に出掛け、更に、年1回タクシーで諏訪湖の周りにお花見に出掛ける予定が組まれている。	

ニチイケアセンター川岸夏明・いちいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に一括管理させていただいている。ご家族との外出等、お金を使える場面を持てるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族のご協力を頂き、希望のある方にはホームの固定電話で会話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節の装飾を行なうなど、四季を感じられる空間となるよう努めている。また、テラスで外の景色を眺めながらゆっくり過ごしていただく時間をつくる等、心地良く過ごしていただけるようにしている。	玄関には写真入りでスタッフの紹介がされている。リビングフロアは大きな掃出し窓からの陽当たりも良く、明るく寛げるスペースとなっている。フロア内は季節の飾りつけに合わせ、廊下の壁には1年分のお便り「なつあけライフ」が掲示され、ホームの活動の様子が見て取れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の希望を尊重し、居室でゆっくりと過ごしていただいたり、共有スペースでなじみの方たちと一緒に過ごせる時間も持てるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご自宅からなじみのものや愛用品を持ってきていただくようにしている。	担当職員により衣替え等がなされている。各居室は利用者の状態に合わせた居室となっている。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、イス、テーブル、テレビ等が持ち込まれ、壁には家族の写真、職員から送られた誕生日のお祝い色紙等が飾られ自由に寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室が分かるように、入り口に表札を出させていただいている。また、トイレが使用中かどうか分かるように札を取り付けている。		